SOCCER DIGEST

95th ALL JAPAN HIGH SCHOOL SOCCER TOURNAMENT "TOHO vs MATUYAMAKITA"

第95回全国高校サッカー選手権大会ダイジェスト

遠野イレブン、全国で飛躍。

県勢9大会ぶりの初戦突破で16強入り。

4大会連続出場を果たした夢の舞台。
遠野高校は初戦の壁を打ち破り16強入りを果たした。
激闘の2試合を振り返る。

写真／遠野中出身のFW・阿部亮太（2年）はDF・五嶋一樹（3年）のクロスを頭で合わせ先制をもぎ取った

第2回戦試合結果

1月2日　フクダ電子アリーナ（千葉）

遠野	2（2-0、0-0）0	松山北

得点	
阿部亮太（37分） 佐々木琢光（40分）	

シュート数	
前半　5本 後半　6本	前半　2本 後半　4本

1

1_気合いが入る遠野イレブン　2_熱戦を多くの遠野サポーターが見守った　3_MF・佐々木渓人（2年）のスルーパスをFW・佐々木琢光（3年）が冷静に決め追加点

2

3

5

4

4_度重なるケガを乗り越え全国の舞台に帰ってきた主将の千田夏寅（3年）。攻守で勝利に貢献した　5_後半の猛攻を耐え抜いた遠野。終了のホイッスルに笑顔がこぼれた

9大会ぶりの初戦突破に、遠野サポーターの歓声が会場に轟いた。

第95回全国高校サッカー選手権大会は昨年12月30日から1月9日までの7日間、埼玉スタジアム2002などで行われ、熱戦が繰り広げられた。遠野の初戦は2日、千葉県のフクダ電子アリーナで行われ、愛媛県代表の松山北と対戦。2対0で快勝し、同校が8強入りした第86回大会以来となる、県勢初戦突破を果たした。

遠野は前半、ロングボールで相手守備陣を揺さぶりつつ遠野中出身・浅沼海斗や青沼聡（ともにMF、3年）らが両サイドに切り込み、徐々にペースをつかむ。その後、主将のMF・千田夏寅（3年）を起点に持ち味のパスサッカーを展開。32分には、遠野中出身のFW・阿部亮太（2年）が右クロスを頭で合わせ先制。3分後には、FW・佐々木琢光（3年）が相手守備陣の隙をついて抜け出し、冷静に追加点を決めた。

両FWの連続ゴールに、会場は一気に遠野ムード。良い流れで前半を折り返す。

後半は、相手の反撃に対し伝統の堅守を展開。県大会決勝では専大北上に2得点を許すなど、守備が課題だったが、全国に向け修正。最終ラインの要となったDF・高橋宏輔（3年）や、遠野中出身の瀬川祐希と沢里彪我（ともにDF、3年）らが、素早いプレスで相手のチャンスを潰した。また、2大会連続出場の遠野の守護神、GK・菊地将大（3年）が好セーブを連発。遠野は体を張った全員サッカーを展開し、前・後半を通して無失点に抑えた。

終了のホイッスルが鳴ると、選手と遠野サポーターは一緒に喜びを爆発させた。8年越しの県勢初戦突破は、遠野のみならず、岩手全体を沸かせた。

SOCCER DIGEST

95th ALL JAPAN HIGH SCHOOL SOCCER TOURNAMENT

"TONO vs MAEBASHI IKUEI"

死力を尽くすも、準V・前橋育英に惜敗。

第３回戦試合結果

１月３日　フクダ電子アリーナ（千葉）

遠野	0	0-1 / 0-0	1 前橋育英

得点

角田（２分）

シュート数

前半　０本	前半　８本
後半　５本	後半　５本

1

全国８強を争う３回戦は１月３日に行われ、遠野は、高総体覇者の市立船橋を破り、今大会で準優勝した前橋育英（群馬県代表）と激突。フクダ電子アリーナを舞台に死力を尽くして戦ったが、０対１で敗れた。

前半２分、立ち上がりを襲われコーナーキックから失点。その後は、全国常連のテクニカルな攻撃を粘り強い守備でしのいだ一方、ボールを支配される時間が続き、前半はシュート０本に終わった。

後半は、疲労から足が止まり始めた前橋育英に対し、遠野は積極的にボールを奪いに行った。後半７分、ＦＷ・阿部亮太が相手ＧＫとの１対１に。右足から放ったシュートは好守に阻まれたが、流れを遠野に引き寄せた。その直後、ＦＷ・佐々木琢光は決定的場面で左足を振り抜くも、ボールはわずかにゴール右へ。その後も何度もチャンスをつくったが、あと一歩のところでネットを揺らすことができなかった。

ペンギンユニフォームは全員で攻め、全員で守り、全員で走り続けたが、試合終了を告げるホイッスルは無情にもピッチに鳴り響いた。目を真っ赤にしてスタンドに駆け寄った選手たちには、遠野サポーターから「よく頑張った」と温かい声がかけられた。

前大会では、優勝した東福岡に完敗し全国トップとの差を痛感。その差を埋めるべく、選手は歯を食いしばって厳しい練習に耐えてきた。伝統の堅守に加え、攻撃的なサッカーも磨いた。９大会ぶりの初戦突破と準優勝校との接戦は、実力の高まりを示している。

今大会の経験を糧に、遠野イレブンは、さらに強くなって全国のピッチに帰ってくることだろう。新チームを率いる現主将のＭＦ・高原優介（２年）は「ベスト８以上が目標。全国レベルを意識し、練習に打ち込む」とさらなる飛躍を誓った。

1_遠野イレブンに声援を送る応援団　2_ＦＷ・阿部亮太のシュート。得点には至らなかったが会場を沸かせた　3_ＭＦ・浅沼海斗は気迫あふれるプレーでチームを鼓舞。何度もチャンスを作った

4_遠野は全員サッカーで相手の猛攻に食らいついた　5_体を張ってゴールを守った遠野の守護神・ＧＫ菊地将大　6_必死でサイドを切り裂くＭＦ・青沼聡

最後まで走り抜けた遠野イレブンに温かい拍手が送られた

INTERVIEW

インタビュー

前主将・ＭＦ
千田 夏寅（かい） 君
（３年、ベルディＳＳ岩手Ｕ－15出身）

遠野での経験を生かす

自分たちの力を出し切ることができたが、悔しさが残る。後輩たちには、常に全国を意識した練習で、さらなる高みを目指してもらいたい。自分は、遠野で培った経験を生かし大学でサッカーを続け、プロ選手を目指す。

現主将・ＭＦ
高原 優介（ゆうすけ） 君
（２年、ベルディＳＳ岩手Ｕ－15出身）

新チームで全国上位へ

全国で勝つためには、止める・蹴るの基礎力を相当磨く必要がある。先輩たちの悔し涙、そして、全国での経験を糧に、新チームでは全国８強以上を目指す。遠野の皆さんの応援をチカラに変え、練習に練習を重ねたい。

現副主将・ＦＷ
阿部 亮太（りょうた） 君
（２年、遠野中出身）

全国の舞台に必ず帰る

初戦で１点決めることができたが、３回戦の決定的な場面でシュートを決められなかった。今大会では１つ勝ち進んだ分、次なる壁を目の当たりにした。もっと勝負強さを磨き、この悔しさを全国の舞台で晴らしてみせる。